

外地「いのち」の資料集(四)

—「台湾総督府医院年報」【全六巻・別冊】  
(編集復刻版)

編・解題—鈴木 哲造 (中京大学社会科学研究所)  
造 本—B5/A5判・並製・総約1,400頁  
揃 価—80,000円 (配本毎・別冊分売可)

収録資料  
【第一回配本】2021年2月 配本揃価20,000円 ISBN978-4-910363-21-9  
一巻 (148頁)  
『台北医院第一年報告 (明治三十年度自一月全三十一年度至三月)』  
(台北県台北医院、1898年)

二巻 (108頁)  
『台湾総督府台北医院第七回年報』 (台湾総督府台北医院、1904年)  
別冊 (詳細は下記へ)

【第二回配本】2021年8月 配本揃価32,000円 ISBN978-4-910363-22-6  
三巻 (310頁)  
『台湾総督府台北医院第十二回年報 (明治四十一年)』 (台湾総督府台北医院、1909年)  
四巻 (316頁)  
『台湾総督府台北医院第十七回年報 (大正二年)』 (台湾総督府台北医院、1914年)

【第三回配本】2022年2月 配本揃価28,000円 ISBN978-4-910363-23-3  
五巻 (312頁)  
『台北医院第二十二回年報 (大正七年)』 (台湾総督府台北医院、1919年)  
六巻 (172頁)  
『台北医院第三十七回年報 (昭和八年)』 (台北医院、1934年)

別冊詳細-----  
(約40頁) ISBN978-4-910363-24-0 本体価格 1,000円  
\*解題・総目次

推薦—鈴木 晃仁 (慶應義塾大学)、高岡 裕之 (関西学院大学)

『外地「いのち」の資料集』シリーズのご案内

外地「いのち」の資料集(一)  
—「朝鮮総督府医院年報」附「朝鮮医育史」  
●編・解題 慎 蒼健 揃価 88,000円【全五・別巻】

外地「いのち」の資料集(二)  
—満洲医科大学  
●編・解題 末永 恵子 揃価 58,000円【全四・別巻】

外地「いのち」の資料集(三)  
—満洲・朝鮮・台湾の感染症  
ペスト・コレラの記録  
●編 金沢文圃閣編集部 揃価 98,000円【全八・別巻】

外地「いのち」の資料集(五)  
—中国占領地 同仁会  
●編・解題 末永 恵子 揃予価 138,000円【全九巻・別冊】

『岩手の保健』大牟羅良生誕100周年記念復刻  
●解説 北河 賢三 揃価 255,000円【全十四巻・別冊】

■解題目次

- はじめに  
1、台湾総督府医院の設立と変遷  
2、台湾総督府医院の統治政策上の位置づけ  
3、『台湾総督府医院年報』の史的価値  
おわりに

年	区分						種別	患者数	入院患者	同延人員	患者数	外来患者	同延人員	患者数	同延人員
	明 治 三 十 八 年	明 治 三 十 七 年	明 治 三 十 六 年	明 治 三 十 五 年	明 治 三 十 四 年	明 治 三 十 三 年									
	本島	内地	内地	内地	内地	内地	本島	内地	内地	内地	内地	内地	内地	内地	内地
	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111

累年患者延人員比較表



『外地「いのち」の資料集』シリーズ既刊本書影



おススメしたい人……  
近現代史/植民地/医学史/  
医史学帝国日本/科学史/東  
アジア近代科学史/朝鮮近代  
医学史/満洲史など

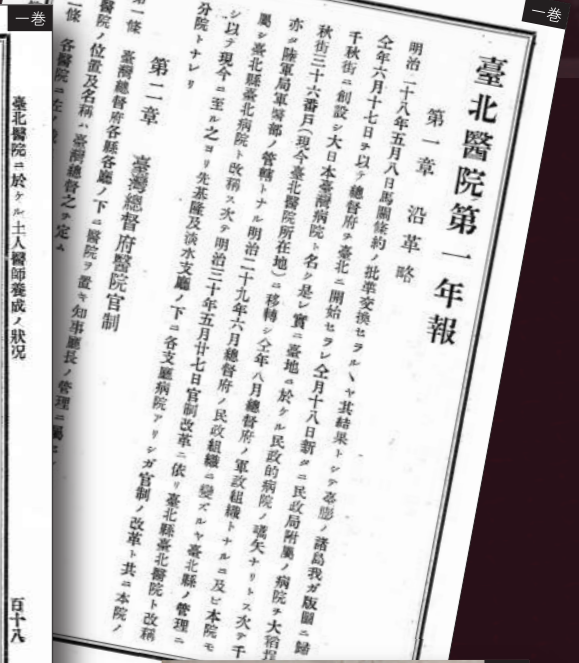
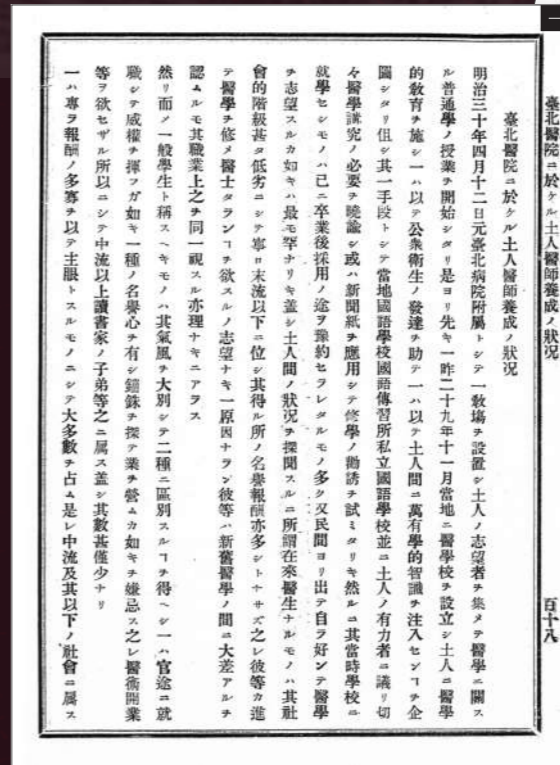
■『岩手の保健』書影

外地「いのち」の資料集(四)

—「台湾総督府医院年報」

【全六巻・別冊】  
(編集復刻版)

本書は、台湾社会がどのような疾病を抱えていたのか、  
医師、看護婦、産婆及び助産師がどのように養成されたのか、  
医療施設がどのような組織体制のもとで  
どのように運営されたのかという、日本統治下台湾における  
医療史の課題に取り組む上での有用な情報源。  
患者の受入れから治療あるいは入院及び退院にいたる  
手続きと職員の動き、それに伴う文書の流れを把握することができる。



「病院と医院とは何れが良きぞ斯かる問題は内地人の  
脳髓に浮かぶべくもあらず左れど土人の目から観る  
ときは大なる好不好的のある者なりとぞ(……)台北  
病院も改めて医院となりたれば土人の宇義沙汰も止  
みぬべく縁起直して来院者も増加やせん」  
(『台湾新報』1897年7月2日)

本書では、政治・経済・社会・文化等との連関から  
医学・医療・疾病を捉え、外地・植民地の各地域を  
横断越境する複雑な医学・科学の権力関係史への考察を促す。  
「いのち」と「暮らし」のありかたを長期的な歴史軸で問う、  
ここから始まる「基盤」的なシリーズ資料集。



# (四)「台湾總督府医院年報」

總督府は、医療政策を統治政策の一環として位置づけ、總督府医院に対して、①「官立」機関という権威性により優秀な医師を招致すること、②台湾における医療施設の模範的、指導的、中核的な医療機関となること、③異民族統治政策の遂行機関となること、④統治者たる内地人の健康を守ることに期待していた。本書は、かかる總督府医院のうち、台北医院に関わる年次報告書を取録する植民地医学に関する基盤資料である。

## 本書の史的価値

日々の診療活動の実績を示す各種統計記録、公式統計『台湾總督府統計書』には未記載項目を多く含む

- ①社会政策の一環でもある施療患者及び薬価半減患者の動静
- ②八種伝染病患者の受入れ並びに診療の状況
- ③病床の利用状況
- ④病類別患者の動静について、男女別、種族別の定量的な変遷を追うことができる。

第二節 年齢級及病類別醫院入院治療患者及死亡者

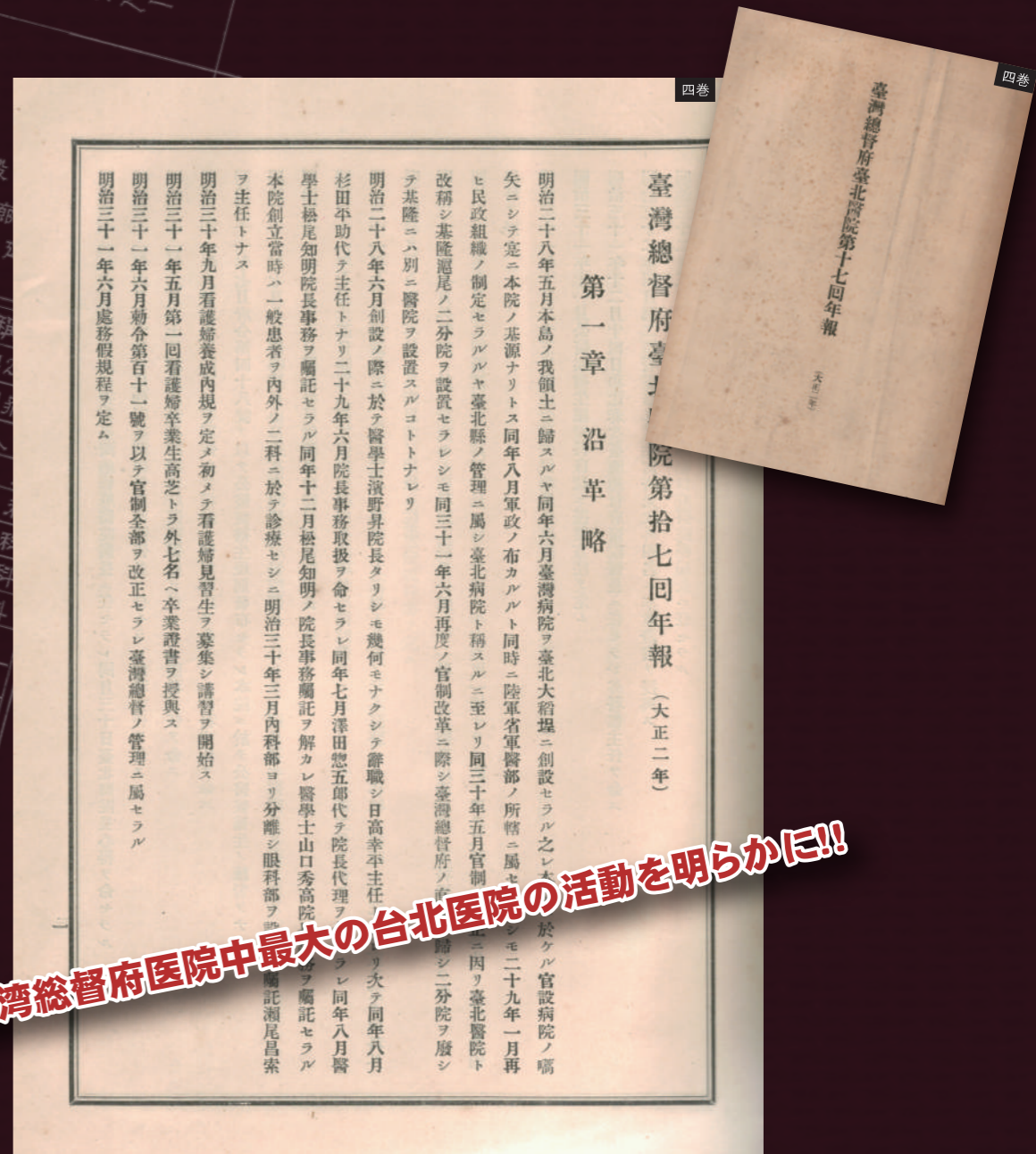
病 類	種 族	性 別	一 歳 未 満		一 歳 以 上		二 歳 以 上		五 歳 以 上		十 歳 以 上		十 五 歳 以 上		二 十 歳 以 上		三 十 歳 以 上		四 十 歳 以 上		五 十 歳 以 上		六 十 歳 以 上		計			
			患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡	患 者	死 亡
(1) 腸チフス	内地人	男	1	3	5	1	4	11	3	7	1	5	1	1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
		女	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
		計	1	3	5	1	4	11	3	7	1	5	1	1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
(2) パラチフス	内地人	男	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
		女	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
		計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
(3) マラリア	内地人	男	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
		女	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
		計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

当時、内地の人々から「鬼界ヶ島」と恐れられた台湾の熱帯風土と不良な衛生状態による「悪疫瘴癘」の流行

總督府医院12医院中、台北医院は、職員数、診療科数、病床数が最大であり、それにともなって取扱い患者数も最多であった。台北医院は、まさに中核病院のなかの中核的存在であった。

## 疾病と社会との関係を裏付ける植民地医療の基本的な重要史料

西洋列強は植民地統治にあたって「宗教」を利用した。それを有しない日本は「医療」をもって「宗教」に代替した。



台湾總督府医院中最大の台北医院の活動を明らかに!!

植民地主義・グローバリズムの影響によって医療・公衆衛生に関わる知識・制度が東アジア各国間で密接に連関する。本書は学際性と国際性を帯びる東アジアの「新しい医学史」の発展的な思考・研究に向けて重要な基礎資料を集成提供する。

### 【台湾總督府医院 略年表】

- 1895年 初の官立医院である台湾病院が台北に設置
- 1897年 台湾總督府医院官制により、總督府各県各庁の下に医院を置くこと定められた
- 1921年 助産婦養成事務が職掌に加えられる
- 1923年 看護婦養成事務が職掌に加えられる
- 1938年 台北医院が台北帝国大学に移管、医学部付属部病院となった(現国立台湾大学医学部付属病院)
- 1940年 医院の分院を設置することが可能になり、花蓮港医院玉里分院が開設。日本敗戦後各病院は接収され、例えば台南医院は台湾省の省立台南医院、高雄医院は省立高雄医院となるなど国民党政権に引き継がれた